

2024 AUTOBACS SUPER GT Rd.8 MOTEGI GT 300km RACE REPORT



SUPER GT 2024 第8戦モビリティリゾートもてぎ レースレポート

開催日：予選 11月 2日／決勝 11月 3日

開催地：栃木県 モビリティリゾートもてぎ

予選レポート

11月2日のモビリティリゾートもてぎ（以下「もてぎ」）は、またしても雨となった。雨や台風の影響はこれで4戦連続となるが、第8戦「もてぎ」ではまだ視界が確保されているということで、これまでの第5戦から第7戦までとは違い、様子を見ながらではあるが午前中のフリー走行も午後の公式予選も行うというレースコントロールの見解が出ていた。

午前中のフリー走行は9時20分の定刻よ

り開始された。強めの雨が降り続く路面状況によりコースアウトするマシンが多発し、赤旗中断が度々起こることにより9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」もまとまった走行距離を得るに至らずではあったが、予選に向けて順調とは言えないまでもデータ収集においては一定の効果を見ることが出来た。

14時ちょうどにコースオープンとなった予選Q1。9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC



AMG」は、阪口良平選手が予選Q1を担当する。Q1、Q2では、第4戦富士までと同じ予選方式が採用されるのかと思いきや。Q1は27台が1度にコースインし20分という時間の中で上位14台と下位13台に選別され、それぞれがQ2に進出。Q2での順位でスタートイングリッドが決定される、という形式となった。

その20分間のQ1は、激しい雨量の中で行われた。序盤はタイヤを温める、コースの様子を見るなどで慎重に走るGT300マシンであったが、走行開始10分を過ぎたあたりでアタックに入るマシンが出始めた。そんな中、ちょうど谷となるセカンドアンダーパスからヴィクトリーコーナーにかけて、大量の雨水の流れ、つまり川が発生し、アタックを開始したマシンたちはその川にタイヤを取られヴィクトリーコーナーではコースアウトが続出。それが原因による中断は無かったが、走行開始12分ごろに雨量増加による赤旗が提示されることとなった。

14時35分～に予選が残り時間10分で再開。9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」もここから本気のアタックに挑むこと

となる。走行再開7分ごろに2分02秒056を出して13番手で上位14台入りを果たし、さらなるタイムアップで盤石にQ2上位陣入りを果たそうとしたところ、S字コーナーの進入でスピンからのコースアウトを喫してしまい、赤旗中断の原因となってしまった。

これによりベストラップが抹消され、セカンドベストが予選タイムとして採用されることとなったのだが、そのタイムはアタック開始前のものであり、それによりQ2は下位グループからの出走となってしまった。もしベストタイムが採用されていれば、Q1の14番手で上位グループでのQ2となっていただけに残念でならない。

下位13台によるQ2は15時13分より10分間で行われた。担当したのは富林勇佑選手。間に挟んだGT500のQ1の段階での雨量を見ながら様子をうかがっているが、雨量は一定とならず、Q2開始時では路面の水量はまだ多い状態。そんな中での富林選手のドライブは、タイヤが路面にマッチしない状態での走行を余儀なくされた。それでも2分2秒552というタイムで、22番グリッドというスタート順を得るに至った。





決勝レポート

11月3日の天候は、昨日の雨が嘘のように晴れ渡っていた。昨日はウェットタイヤでの予選であったことなどから、決勝はスリックタイヤを新品から使えるという好条件となっており、ウォームアップ走行では各チームともニュータイヤをマシンに装着してレース用に仕上げておく、という作業を入念に行っていた。

そして迎えた決勝レース。13時に栃木県警の白バイやスーパーカーなパトカーが先



導する交通安全啓蒙のパレードラップからフォーメーションラップ、そして300kmレースのスタートが切られた。

9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」のスタートドライバーは阪口選手。前日の予選Q2で出したベストタイムが上位14台に食い込んでいたことや、ウォームアップ走行でも調子がいいということで、順位を挽回していこうというポジティブな空気が流れていた。





順調にスタートが切られたかと思いきや、序盤に9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」のエンジンが吹け切らなくなってしまう。早急にピットインしようとするも7周目でフルコースイエロー（FCY）が提示され、ピットが封鎖となってしまう。FCYの最中にワーニングランプなどを確認した阪口選手は、冷却周りのトラブルらしいということを無線でピットに連絡。FCYが8周目で解除となると、すぐさま

ピットインをし、マシンはそのままガレージへ入れて原因究明と修復作業へと入った。

しかし、ピットガレージでの作業では修復は困難となったことで、チームはリタイヤを決定。涙を吞むこととなってしまった。

これまでのミッション系のトラブルが解決に向かっていったこと、予選のベストタイムが良かったことなどから大いに期待されていた第8戦「もてぎ」だけに悔しさは大きいと言えよう。

次戦は、9月初頭に台風の影響で延期となった第5戦鈴鹿の代替えレースで、12月7～8日に開催される。今シーズンの最終戦となるレース。ここで快走し、上位に食い込んでいきたいところである。



エントラント代表 神野元樹



雨の中でありながら極めて良いタイムを残した9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」でしたが、予期せぬトラブルによりリタイヤという結果となってしまいました。次戦は約1か月のインターバルを経ての鈴鹿戦なので、トラブルの種を全て潰して臨みたいと思います。

阪口良平 選手

予選ではすごく調子が良く、上位14台に食い込めるタイムを出していました。そこであと少しタイムを伸ばそうとしたところ、水に乗ってしまったのスピンのため、タイム抹消は悔しいところです。期待していた決勝で、これまでとは違うトラブルが出てしまいこちらも悔しい思いがありますが、それらを解決して次戦の鈴鹿では上位を目指していききたいと思います。



富林勇佑 選手

予選Q2では、マシンはかなりいい状態で走ることが出来たのですが、タイヤのマッチングが悪く、思ったよりもタイムが伸びない状況でした。ドライとなった決勝では、マシントラブルで乗ることが出来なかったですが、ウォームアップでの感想としては速さはあったと思います。トラブルの種をつぶして鈴鹿戦では気持ちのいいレースを目指していききたいと思います。

